

令和元年6月21日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02920

研究課題名(和文) 中国における仏教の展開とソグド商人

研究課題名(英文) The Development of Buddhism in China and the Sogdian Merchants

研究代表者

中田 美絵 (Nakata, Mie)

関西大学・東西学術研究所・非常勤研究員

研究者番号：00582842

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：唐代の中国仏教が日本を含む東アジア地域に大きな影響を与えたことは周知のとおりである。では唐代中国のいかなる状況下でこの「中国仏教」は隆盛したのか。唐の歴史がユーラシアの歴史的動向と密に関わりながら展開したことをふまえれば、そこで育まれた「中国仏教」も同様にユーラシア全体の動向と関連付けて検討する必要がある。そこで本研究では、ユーラシアの広域を移動し唐の政治・経済そして宗教・文化にも多大な影響を与えたソグド人の活動に着目し、唐代の中国仏教が広くユーラシア全体の歴史とどのように関わりながら展開したのかを考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ソグド人の活動が、唐の軍事・経済・文化など様々な方面に大きな影響力をもたらしていることは指摘されてきたが、本研究を通じさらに中国の仏教の展開においても彼らの経済的活動や宗教的活動が極めて重要であることが確認できる。また、宦官・宮廷の女性などがソグド人らと仏教を紐帯として結びつき、ひとつの政治勢力となっていた時期が確認できるなど、唐代の政治史研究においてもソグド人の動向は無視できないことが分かる。

研究成果の概要(英文)：It is a well-known fact that Chinese Buddhism in the Tang Dynasty had a significant impact on many countries in East Asia, including Japan. Under what circumstances in Tang China did this religion flourish? Given that Tang history developed in close relation with Eurasian historical trends, it is necessary to observe the development of Chinese Buddhism during this period in connection with overall trends in Eurasia. In this regard, this study examines how Tang-period Chinese Buddhism advanced in relation to Eurasian history with a focus on the activities of the Sogdian merchants, who travelled the broad expanses of Eurasia and had a great impact on the politics, economy, religion, and culture of Tang China.

研究分野：東洋史

キーワード：唐 ソグド人 仏教 寺院

様式 C - 19, F - 19 - 1, Z - 19, CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

漢代に中国に伝わった仏教は、南北朝期から隋唐期にかけ着実に社会的に受容された。特に唐代(618 - 907)は、教学面での充実にくわえ、国家の保護のもとで經典の翻訳が精力的におこなわれるなど、中国仏教は黄金期を迎える。こうした唐代にみられる仏教の隆盛は、ユーラシア全体の歴史的動向とどのように関わりながら展開したのか。こうした関心から、ユーラシア全体の政治・経済・軍事・文化等の多方面からの検証を通じ、唐以前の中国仏教史の再構築を目指したい。

2. 研究の目的

唐代仏教史をユーラシア史的な文脈のなかに位置づけることを目指し、これまで仏教を推進した政治権力の人的構成や、仏教事業とユーラシア全体の政治動向との関係について考察を行ってきたが、本研究ではとくにソグド人の動向に焦点をあてたい。仏教が隆盛した唐代は、ソグド人の活動がピークを迎え、彼らが中国社会に融合していく時期でもある。仏教展開の基礎となる寺院の繁栄は、遠隔地商人のもたらす富に委ねられる部分が少なくなく、仏教の東方への伝播と交易の活況とは相関関係にあり、唐代までの中国における仏教の展開も、ソグド人が重要なカギを握っていると考えられる。そこで、ソグド人の諸活動の分析を通じ、唐までの仏教繁栄の政治的・経済的背景を考察する。

3. 研究の方法

2. で述べたように、本研究においてはソグド人をはじめとする外来人の唐以前の中国内地における政治的・経済的活動、および仏教を主とする宗教活動に注目する。その際、内陸ルートから中国に来る外来人(僧侶や商人)のケースのほか、南海経路でやってくる外来人の動向も同時に取り扱う。以上の方法で行うにあたり、中国内地の外来人や唐代までの仏教に関連する文字資料のほか考古遺物などの調査が不可欠となる。そこで、初年度の2015年度から2017年度の3年間に特に集中して資料調査を行った。

2015年度8月に中国山西省北部と北京や河北における唐以前の仏教関連および商人関連の資料調査を行った。具体的には北京(国家博物館、国家図書館・万仏堂・法源寺)・大同(大同博物館、雲崗石窟)にて資料調査を実施した。文字資料や考古遺跡の調査を実施するほか、美術史的手法からのアプローチも試みた。

2016年度から2年間は、南海方面に目を向け、海から中国に来る外来人(商人・僧侶)について集中的に研究を進めた。唐以前においては陸経路で中国本土にやって来る場合と比較すると海経路でやって来る外来人の交易活動の実態や信仰状況は不明な点が多い。唐代までの中国沿岸部における交易状況や信仰状況の全体像を把握するために、関連する先行研究の収集・整理と並行して、広州博物館・広東省博物館・光孝寺・南海神廟(以上、広州市)、西山公園(桂林市)、海事博物館・香港歴史博物館(以上、香港)などを訪問し、唐代以前の南海交易関連の資料および寺院や仏教関係の遺跡・資料の調査を行った。2017年度は、ベトナム・ハノイを中心に関連する遺物・遺跡の調査を行った。

最終年度は、本研究全体で得られた成果をまとめ、国内外の学会に参加・報告し、意見交換を行う期間とした。日本では、鷹陵史学会(仏教大学)にて、「唐における仏教儀礼と政治権力」を報告した。中国では、浙江大学で開催された中国唐史学会「唐代中国与世界」国際学術検討会に参加し、「从天竺来到中国的粟特人」を報告した。ルール大学ポーフム(ドイツ)で開かれたワークショップでは、「Sogdian Buddhist Monks in Tang Political History」のタイトルで、唐代政治史におけるソグド人僧侶の様々な活動に関する発表を行い、言語学・歴史学など多方面の研究者から様々な意見を得た。現在は以上で得られた諸情報を踏まえ、研究のブラッシュアップをおこない発表にむけた準備に取り組んでいる。

4. 研究成果

(1) 唐代中国におけるソグド人の仏教「改宗」

東方における仏教の隆盛と交易の活況とは相関関係にあり、唐代までの中国における仏教の展開も、シルクロード交易の主人公であったソグド商人の活動が重要な鍵を握っていたとみられ、彼らと寺院や僧侶との結びつきの実態を考察する必要がある。本研究ではとくに唐内地のソグド人仏教徒が仏教に「改宗」した背景に着目し、彼らが中国に進出・定着する過程で仏教に期待した役割について具体例をあげながら検証した。

まず、ソグド人にとって出家とは、世俗の栄達に比肩する出世の方法であり、社会的な地位の獲得に通ずるものであった。一方、在家のソグド人には、各々の財力を背景に施主として寺院や僧侶の支援を行うものが確認され、そこには仏教に基づく経済的倫理も少なからず影響していた。また、寺院や僧侶との結びつきは、その背後に広がる在地社会との結びつきや人々の信頼獲得という点も意識されていた。

以上に加え、ソグド人の活動の場は宮中にものびていた。ソグド系の僧侶は、唐前半期には后妃ら宮中の女性と、唐後半期には后妃らにかわって勢力を伸張した宦官と結びつきを持っていたことが確認された。つまり、唐代の前半・後半を問わず、多くのソグド人僧侶が、都の大寺院を拠点に宮廷勢力と結びつき仏教活動を展開していた。女性や宦官という儒教的価値観の

世界ではその権力の正当性を担保できない政治勢力にとって、武則天が積極的に仏教を利用し皇帝位を勝ち得たことにみられるように、仏教が彼らを権威付け、政治の表舞台へと後押しする役割を担っていた。ソグド人はそうした特質をふまえ、政治的な戦略のもと僧侶として宮中勢力と結合し、その庇護を得ようとしていたといえる。さらに、宮中の政治勢力と結合し、その庇護下で商業活動を展開した僧侶もいたように、経済的な戦略があったことも認めることができる。以上より、ソグド人の仏教「改宗」には、生存戦略としての側面、あるいは政治・経済的利益を見込んだ主体的な側面もあったとみられる。

(2) 海のソグド人・ペルシア人

東アジアにおける仏教隆盛にともない寺院の荘厳のために香木の需要が高まると、それらを取り扱う商人の活動も活発化したとみられている。ソグド人が陸路において香木の交易にかかわっていたことも、そうした状況と無関係ではなかったとみられる。さらには、海上においてもソグド人が関与していた可能性も想定せねばならない。本研究では、8世紀に作成されたインドから海路で中国に来た仏教僧侶の旅行記を用い、仏教僧とソグド人との関係、そして当該時期のソグド人が海経由でどのような方法で唐に来ることが出来たのか、また、当時活躍していたペルシア商人の海上交易活動とソグド商人との関係について検討した。

ササン朝ペルシア滅亡後、ペルシア人は各地に移住を始め、7世紀後半～8世紀前半頃にはインド洋における海上活動を活発化させていた。一方、ソグディアナでは、8世紀頃からアラブの攻撃を受け、ソグド商人のなかには、陸路の混乱を避け、海上に進出するものも少なからず存在していたとみられる。本研究で分析した米准那は、そのような海上交易に進出したソグド人であった。米准那は、東南アジアと活発に交易していた南インドのカーンチープラムに進出し、そこからセイロンに向かい、ペルシア商人の交易ルートを利用しながらペルシア商人と共に中国に赴いたことが明らかになった。このことによりソグド人が南海交易においてペルシア商人と共に活動する事例があることが確認できた。

また、日本の法隆寺伝来の8世紀の白檀に何故パフラヴィー刻銘とソグド語の焼印が残されていたのかという問題についても一つの可能性を提示することが出来た。従来の研究で刻銘と焼印から白檀が輸送される過程でペルシア商人とソグド商人が介在しており、ソグド商人も海上交易に関与していた可能性があるという指摘されてきたが、史料的裏付けは難しく、10世紀のイスラム側史料に記載されている例しか確認されなかった。しかし、8世紀の米准那の事例より、8世紀の白檀の海上における流通においてソグド商人が関与し、なおかつペルシア商人とも接触することが可能であることを裏付けることが出来た。

(3) その他

(1)を進める中で、寺院・僧侶とソグド人は、宮廷の女性や宦官とも強く結びつき、それらが一つの勢力となって唐仏教を盛り上げただけでなく、唐の政治に大きな影響力を持っているという仮説を持つに至った。たとえば、玄宗開元期に様々な仏教政策が実施された背景においても、仏教を信奉する皇后や公主といった女性たちやそれらと結びついた「胡」と呼ばれる人々の政治的・経済的活動に対する反動からくるものであったことが浮かび上がってきた。そして、9世紀の会昌の廃仏が実施される背景においても同様の政治的構造がうかがえる。廃仏が実施された政治的・経済的理由について、内廷の宦官の勢力伸長、ソグド人ら外国商人の経済活動、寺院のもつ特質などから総合的に考察した結果、弾圧の対象は寺院・僧侶だけではなく、それと結び宦官やソグド人をはじめとする外来人も含む可能性が高いことが分かった。以上のような勢力と、官僚を中心とする正統な政治勢力との具体的な関係については今後検討すべき課題である。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 2 件)

中田美絵「唐代政治史上の会昌の廃仏—ジェンダー秩序・宗教・外来人の視点から—」『唐代史研究』査読無し, 21, 2018, pp.52~75.

中田美絵「唐代中国におけるソグド人の仏教「改宗」をめぐって」『東洋史研究』, 第75巻第3号, 2016, 査読有り, pp.34~70.

[学会発表](計 6 件)

中田美絵 “Sogdian Buddhist Monks in Tang Political History”, Dynamics, Stability and Tradition: The Role of the Religions of Iranian Speakers in Central and Eastern Asia, 2019年, the Centre for Religious Studies (CERES), Ruhr-Universität Bochum.

中田美絵「从天竺来到中国的粟特人」中国唐史学会第十三届年会暨“唐代中国与世界”国际学术研讨会(中国・浙江大学), 2018年

中田美絵「唐における仏教儀礼と政治権力」鷹陵史学会 第27回年次研究大会(仏教大学), 2018年

中田美絵「唐代政治史上の会昌の廃仏—ジェンダー秩序・宗教・外来人の視点から—」唐代史研究会夏期シンポジウム, 2017年

中田美絵 “Sogdians’ Conversion to Buddhism in Tang China.”, Association for Asian Studies

(AAS-in-ASIA 2016), 同志社大学, 2016 年

中田美絵 “A Sogdian from the sea: Maritime Transport in the 8th century as seen from The Pilgrimage Record of Vajrabodhi” Global History Workshop “Globalization from East Asian Perspectives”, 大阪大学中之島センター, 2016 年

〔図書〕(計 3 件)

〔共著〕藏中しのぶ編, 竹林舎 『古代の文化圏とネットワーク』 2017, pp.299 ~ 327.

〔共著〕原田正俊編, 勉誠出版 『宗教と儀礼の東アジア』 2017, pp.188 ~ 200.

〔共著〕栄新江編, 科学出版社 『粟特人在中国: 考古発現与出土文献の新印証』 2016, pp.337 ~ 349.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号 (8 桁):

(2) 研究協力者

研究協力者氏名:

ローマ字氏名:

科研費による研究は, 研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため, 研究の実施や研究成果の公表等については, 国の要請等に基づくものではなく, その研究成果に関する見解や責任は, 研究者個人に帰属されます。